

# 平和と環境への脅威 原子力空母いらない

米海軍の原子力空母「ジョージ・ワシントン」の横須賀基地（神奈川県）への配備が、9月25日にも行なわれようとしています。

2基の原子炉を持つ原子力空母は、まさに「東京湾に浮かぶ原子力発電所」です。ところが「軍事機密」の壁を前に、日本側は普通の原発のように安全審査をすることができません。もし、横須賀港停泊中に原子炉に重大事故が起これば、首都圏

の120万～160万人ががんなどで死亡するという大変な事態が起きると予測されています。

空母は5月に火災事故を起こし、そのせいで日本への入港が1ヵ月以上遅れました。しかし、詳しい事故の状況は公表されず、米軍は市民向けに説明会を開くことを拒否しています。米軍の管理体制は不安だらけです。

原子力空母母港化は横須賀が米国の戦争の出撃拠点として固定化することも意味します。今こそみんなで反対の声を上げましょう。

## 横須賀配備に反対



↑福島党首ら先頭に反対訴え横須賀市内をデモ(7月19日)。

## 各地で放射能たれ流し

8月には、米原子力潜水艦「ヒューストン」が今年7月までの2年間、放射能漏れを起こしていたことが明らかになりました。この間、放射能を含んだ冷却水が漏れていることが分らないまま原子炉を運転し続け、佐世保基地（長崎県）、ホワイトビーチ（沖縄県）、そして横須賀にも寄港していたというのです。しかも、米側が放射能漏れを発見したという日から日本の外務省への連絡まで、1週間もかかっているのです。米軍の安全管理体制と事故対応が実はかなり不十分であることは明らかです。原潜も空母も「アメリカが安全と言っているのだから安全なんだ」と繰り返し返すばかりで、独自の検証を行なうつもりがない日本政府は、国民の生命と安全のことを真剣に考えているとは言えません。

# 社民党

# ジョージ・ワシントンは帰れ